

わらびて



岩手県立埋蔵文化財センターは開設以来発掘調査技術講習会を開催してきました。今年度は、動物遺存体の調査・分析について岡山理科大学の富岡直人教授による講義とワークショップが行われました。

市町村埋蔵文化財担当者16名と(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員32名が受講しました。

この発掘調査技術講習会は、昭和56年から今回で39回開催しており、知見や技術の向上に寄与しています。

主な内容

- ◆平成30年度の成果
(公財)岩手県埋蔵文化財センター
- ◆平成30年度に注目された遺跡
- ◆復興支援で福島県へ派遣された文化財担当者からの報告
- ◆平成30年度イベントの報告

【所報名について】「わらびて」は蕨手刀(わらびてとう)に由来しています。蕨手刀は、奈良～平安時代初期に使われた鉄製の刀で柄頭が早蕨(さわらび)の芽を巻いた状態に似ていることからこう呼ばれます。群集墳などから出土し、東北地方、特に岩手県で多く出土しています。

公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

平成30年度 発掘調査の成果

今年度は県内3市4町3村、発掘調査面積約51,000㎡の調査を行いました。前年度と比較し調査面積が約半分となっています。復興関連の埋蔵文化財調査も漸次減少し、三陸沿岸道路建設など復興関連工事も同時に急速に進んでいる様子が見えます。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、主に沿岸北部の洋野町を中心に確認されています。継続調査となった田ノ端Ⅱ遺跡では、前期を中心とした竪穴住居、竪穴状遺構、土坑類が複数見つかり、前期から後期にかけて形成された集落であることが明らかとなりました。宿戸遺跡では、今年度が最終の調査となり、通算で3箇年の調査が行われました。前回までの調査では、遺跡の高位面で早期から中期の竪穴住居等が密に分布することが確認されていましたが、低位面に相当する今年度の調査区では、新たに縄文時代後期や弥生時代の居住域となっていることが確認され、時代により居住する場所を異にしていたことが明らかになりました。また、偏平な小礫に細い線で人体を表現したと考えられる遺物も出土しています。北玉川遺跡・板橋Ⅱ遺跡・サンニヤⅢ遺跡では、多くの陥し穴状遺構や土坑が見つかりました。

普代村の下村遺跡では、1,000㎡に満たない範囲の調査でしたが、中期を中心とした竪穴住居や貯蔵用の土坑が多く見つかりました。



人体文? 石製品
洋野町 宿戸遺跡出土

古墳時代～古代

野田村の中平遺跡では今年度の調査で円形周溝1基と方形周溝1基が見つかりました。今年度を含む4箇年の調査で竪穴住居が16棟も見つかりました。他に、奈良時代の竪穴住居は九戸村の沖遺跡や洋野町の鹿糠浜Ⅰ遺跡で、続く平安時代の竪穴住居は盛岡市八幡館跡で見つかりました。

中世

中世では、平泉町の祇園Ⅰ遺跡では12世紀代の溝跡1条、花巻市の万丁目遺跡では竪穴建物8棟、掘立柱建物168棟、土坑類、井戸、苑池、溝、カマド状遺構が見つかりました。これらの多くは、溝で区画された南北約50m、東西約80mの内部に位置しており、居館があったことが想定されています。出土した陶磁器類から、12～15世紀前半の長期間に亘り機能していたと考えられます。

紫波町の南日詰大銀Ⅱ遺跡、北日詰城内Ⅰ遺跡、北条館跡は、北上川緊急治水対策事業に伴い調査が実施されました。3遺跡とも北上川西岸の標高91～93m前後の河岸段丘上に立地しております。南日詰大銀Ⅱ遺跡では、12世紀のかわらけの他、中国産陶磁器、常滑・渥美産の国産陶器が出土しており、域内でも重要な場所であったことが窺われます。北日詰城内Ⅰ遺跡からは、掘立柱建物や竪穴建物、隣接する北条館跡では、上端幅6～8m、深さ1.5～2.5mの館を囲んでいた3条の堀が見つかりました。館の主体部は一段高い北側にあり、次年度以降に調査する予定です。

北上市の二子城跡は中世和賀氏の本城と伝えられる当該地域最大の城館跡です。今年度の調査では、縄文時代の陥し穴状遺構、縄文～弥生時代の土坑類・土器類が見つかりました。次年度も広範囲に調査が行われる予定です。



日詰地区の3遺跡

平成30年度に注目された遺跡

盛岡市

もりおかじょうあと
国史跡 盛岡城跡

【 近 世 】

盛岡城は、初代盛岡藩主南部信直が慶長2(1597)年に築城を開始した、東北では数少ない総石垣(城全体が石垣で造られている)の近世城郭です。昭和12(1937)年に国の史跡となり、現在まで雄大な石垣が残されています。

今年度は三ノ丸北西石垣修復事業(37次)と台所門枡形整備事業(38次)に伴い、2箇所で見つけ調査を行いました。

37次調査では、宝永2(1705)年に石垣を積み直した際の栗石(裏込石)や盛土(造成土)の新旧を分ける境目などを確認しました。また、当時、石垣上に掛けられた土塀に伴う控柱跡と考えられる柱列を、今回初めて確認しました。

38次調査では台所門枡形(堀を挟んだ東側の重臣屋敷との出入口)に伴う石垣根石(基礎石)や土塁、土橋跡を確認しました。今回、発見し

た石垣は、明治39(1906)年に岩手公園が開園する際に取り壊されたと考えられる石垣で、100年以上もの間、人目に触れず地中に眠っていたこととなります。今後も調査を継続し、台所門枡形の全容を明らかにする予定です。

盛岡市遺跡の学び館 佐々木 亮二



三ノ丸北西部の石垣上面の検出状況

北上市

おうしゅうかいどうあと
奥州街道跡

【 近 世 】

奥州街道とは江戸幕府により整備された江戸を起点とする五街道の一つで、のちに現在の国道4号線となりました。今回の調査区間は、明治初期の道路の切り替えにより裏街道となり、のちに廃道となっていたため、舗装や開発により破壊されることなく、当時の状態を留めていました。

調査では、①街道両脇に松並木の抜根跡が並ぶこと、②街道幅は5～6m前後で、側溝は3回以上の掘り直しが行われていたこと、③調査区南側斜面部の切通区間には、両脇に盛土し土手が造られていたこと、などがわかりました。街道の路面は整地のため何度も大量の土砂が運ばれており、最も厚い部分では50cm近い厚さがあります。維持管理にかなりの労力が投入されたことが窺えます。整地で盛られた土砂の上

面は踏み締められとても硬くなっており、往来の多さを物語っています。

かつては別の経路が想定されていましたが、今回の調査により、二子・成田一里塚間の経路が明らかになりました。

北上市教育委員会 君島 武史



調査区南側の切通し区間から花巻方面を望む

九戸村

くろやま むかしあないせき
黒山の昔穴遺跡

【平安時代後期】

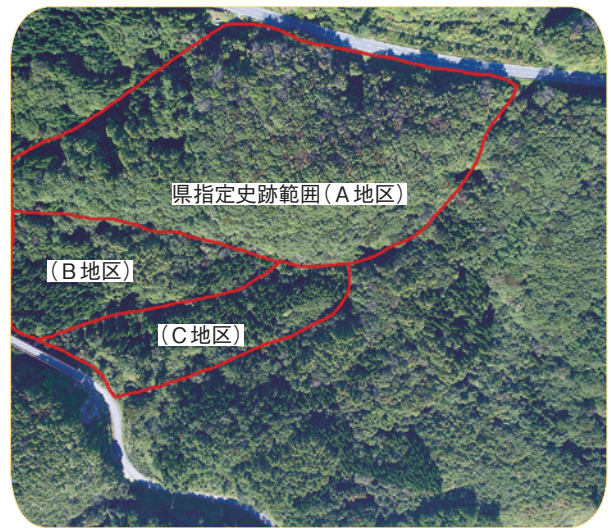
黒山の昔穴遺跡は、九戸郡九戸村大字江刺家の折爪岳南麓(標高約420m)に立地する平安時代後期の高地性集落です。きわめて保存状態のよい遺跡で、平成19年に県指定史跡に指定されていましたが、最近周辺調査を実施したところ、遺跡の範囲がさらに南へ大きく広がることが確認されました。遺跡は東西約440m、南北約260mの範囲に、間に2本の谷を挟んだ3つの東西に延びる尾根状の丘陵に分布しています。それぞれの丘陵の平坦面では、竪穴建物跡と考えられる凹地が北から地図A地区で23箇所、B地区で16箇所、C地区で11箇所と確認しており、その他の小規模な遺構も合わせると確認できた遺構だけでもおおよそ50箇所を越す大集落跡だったということが明らかになりました。

各平場には竪穴建物跡以外にも、テラス状の整地面が尾根頂部や中腹に広がり、南北の緩斜面などでも確認でき、竪穴の配置と現状の地形から道路と思しきなだらかな凹地が長く続く場所や谷の中には低湿地の存在も予想されること

から、古代集落がそのままの状態に残存する貴重な遺跡となっています。特に東北地方北部に分布する高地性集落としては、質、量ともに最上級の遺跡という評価をいただいております。

九戸村教育委員会では来年度以降も調査を継続し、その保存と活用を多方面から図って行く予定です。

九戸村教育委員会 桂川 祐太郎



上空からの遺跡全景

平泉町

むりょうこういんあと
無量光院跡

【12世紀】

無量光院跡は12世紀に平泉を拠点とした奥州藤原氏三代秀衡が建立した寺院です。今回無量光院以前にあったと思われる寺院の築地塀と石敷通路が見つかりました。

石敷は無量光院跡東土塁の下から見つかり、東西方向約12m、南北方向約6mの範囲に広がっていました。時期は12世紀で無量光院を造る直前まで使われていた通路と考えられます。

築地塀は無量光院を造る際に壊されていたため高さは34cm、幅は約1.6m程でしたが、三年前の調査と併せて長さは約15mとなりました。石敷の両端から見つかり、同一軸線であることから、石敷とセットと考えられます。

平泉町内において築地塀は寺院のみで使われていることから、今回見つかった塀と通路は寺

院に伴うものと考えられます。

『吾妻鏡』には無量光院を「新御堂と称する」と書かれています。今回見つかった築地塀と石敷は無量光院以前にあった「御堂」に伴うもので、古い寺院を壊して無量光院を造営したことが分かる重要な発見となりました。

平泉町教育委員会 島原 弘征



確認された石敷(真上から)

特集 福島県への派遣職員からの報告

東日本大震災の後、平成24年から平成29年度まで県外から多くの埋蔵文化財担当者のご支援をいただきました。震災から7年が経過し、県内の復興調査は山場を越し一段落したところですが、福島県では現在も復興に向けた調査が数多く行われています。今年度は、岩手県教育委員会から福島県教育委員会に1名、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターから(公財)福島県文化振興財団に1名の計2名が福島県へ派遣され、発掘調査等の業務に従事しています。現地からの報告を紹介します。

福島県の現状と復興調査について

福島県の復興についての現状と、今年度、試掘調査に携わった遺跡について報告します。

福島県の東日本大震災による被害の特色は、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、福島県浜通り地方の多くの住民が避難しなければならなかったことです。平成25年から、住民は徐々に帰還してきましたが、今もなお双葉町と大熊町の全域、富岡町や浪江町、飯館村の一部が、避難指示区域のままです。このように、福島県の東日本大震災からの復興はむずかしい問題を抱えています。

私が現在所属している福島県教育庁文化財課南相馬市駐在は、東日本大震災の復興事業に関連した業務が多くなっています。「海岸防災林事業」や「県道整備事業」のほか、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、大量に拡散した放射性物質を除染した草木やがれきなどの処理する「中間貯蔵施設関連事業」などがあります。また水田を整備し、農業再生住民の帰還促進を目的とする「農山村地域復興基盤総合整備事業」も盛んに行われています。各都道府県は、文化庁主導のもと福島県の支援として専門員を派遣してきました。今年度は私を含め3名(青森県、新潟県)が所属しています。



平遺跡と新しい防波堤

ここで、私が今年度に試掘調査などに関わった遺跡のうち、海岸近く立地する2つの遺跡を紹介したいと思います。

【平遺跡 南相馬市原町区】

試掘調査の結果、古墳時代と想定される竪穴建物跡が検出されました。この遺跡は現在の海岸線から100mほどしか離れておらず、福島県浜通り地方の特色を示す事例です。

【的場遺跡 浪江町】

「復興祈念公園」関連の試掘調査で新規に登録された遺跡です。海拔0m近い区域の、地表下100cmから埋蔵文化財が確認されました。縄文時代から古墳時代の複合遺跡となり得る貴重な発見となりました。



的場遺跡 検出作業状況

紹介した以外にも、多くの遺跡が海岸からほど近い沖積地に立地しています。これは、岩手県と大きな違いと言っていいでしょう。

先日、浪江町を散策している時、成人式に遭遇しました。女性でも「スーツ」姿が多かったのですが、今後、被災地の復興が加速し、「袴」や「振り袖」の賑やかな成人式が復活することを心から願っています。

福島県教育庁文化財課南相馬市駐在
文化財主査 鳥居 達人

けがやたて 福島県富岡町毛萱館跡について



上空から見た毛萱館跡

毛萱館跡は福島県双葉郡富岡町にある遺跡です。富岡町役場からは南東方向に約2.8km、海岸線からは西に約700mのところであり、紅葉川南岸にある標高35m前後の丘陵に立地しています。

県道広野小高線を建設する場所に遺跡の一部が含まれることから、道路建設で遺跡が失われる前に発掘調査を行い、記録して保存することになりました。平成29・30年度の2箇年で10,000㎡の発掘調査を実施しました。

弥生時代と室町時代の遺構や遺物が主に見つかりましたので、ここではそれらの内容について紹介します。

弥生時代の竪穴住居跡は12軒見つかっています。本遺跡の隣にある東京電力福島第二原子力発電所の建設時にも弥生時代のムラの跡が見つかることから、今から約2,000年前の弥生人は、海岸に近い丘の上で暮らしていたことが分かりました。弥生土器の破片や磨製石斧が出土しています。

室町時代になると、城館として使われるようになります。平坦な丘陵の頂部を堀跡や土塁で分断し、大きな平場として利用していました。その周りにある尾根地形のところにも小規模な平場を複数造り出しています。

大きな平場からは複数の掘立柱建物跡や土坑が見つかり、平場の北東端部では、掘立柱によ

る3棟の門跡と、礎石建ちによる門跡が見つかりました。ほぼ同じ場所で4回建て替えられています。

出土遺物の中には愛知県瀬戸産の陶器碗や壺などがあります。花を描いているかわらけも見つかりました。何れも15世紀のものでした。

毛萱館跡について記されている中世や近世の文献資料はありませんが、こうした遺構や遺物の内容から、15世紀頃に機能していた近隣の村落を治める在地領主の居城であったと考えられ、16世紀にはその役目を終えていることが分かりました。

震災の傷跡が今も多く残る富岡町での遺跡調査に携わり、改めて復興の役に立ちたいとの思いを強くした1年でした。この先も微力ではありますが福島復興のお手伝いが出来ればと考えています。

(公財)福島県文化振興財団

専門文化財主査 杉沢 昭太郎



堀跡と土塁



掘立柱による門跡

平成30年度 イベントの報告

夏休みみんなで考古学者2018

平成30年7月26日(木)と27日(金)の2日間、埋蔵文化財センターで考古学の仕事を楽しく体験できる夏休みの恒例イベントを開催しました。発掘・測量・接合・拓本・展示の5コーナーを設け、2日間で695名の方々が来場されました。親子連れの来場者が多く、子どもたちの体験と一緒に楽しんでいました。3つ以上の体験コーナーをクリアして、「こども考古学者認定証」を手にした人は2日間で406名となり、新たなこども考古学者が誕生しました。



平成30年度 岩手県文化振興事業団プレゼンツ 第39回 埋蔵文化財展

平成30年11月22日(木)～24日(土)までの3日間、陸前高田市コミュニティホールを会場に埋蔵文化財展を開催し、476名の来場者がありました。これまでに発掘調査が行われた陸前高田市内の遺跡から出土した遺物や写真パネルを展示しました。また、県内各地の遺跡から出土したものを通じて、旧石器時代から近世までの歴史を感じていただきました。

この催しは、県内の各市町村を巡回して開催しております。来年度はどの市町村にお邪魔するか、お楽しみに。

平成30年度 埋蔵文化財公開講座 遺跡報告会

平成31年1月26日(土)に県立埋蔵文化財センターの第40回埋蔵文化財公開講座がアイーナにおいて開催されました。午前は東北学院大学准教授竹井英文先生から「魅力あふれる東北の中近世城館」と題してご講演いただきました。午後には埋蔵文化財センターの第21回遺跡報告会が開催され、調査担当者から今年度の調査成果が発表されました。また、報告された遺跡の遺物や写真パネルが展示され、訪れた方々が興味深く見学されていました。



これらの催しは、来年度も同じころに開催する予定です。詳細が決まり次第、当センターのホームページや関係機関に掲示されるポスターでご確認いただけます。



発行 岩手県立埋蔵文化財センター
編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185
電話：019-638-9001
E-Mail：i-maibun@echna.ne.jp
URL：http://www.iwate-maibun.jp/
発行日 平成31年2月28日
印刷 河北印刷株式会社